

第3回大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会議事概要

開催日時	令和3年10月4日（月）16時00分～18時00分
開催場所	大阪狭山市役所 3F 第一会議室
出席者	上甫木委員、久委員、金谷委員、山口委員、吾妻委員、菊屋委員、疋田委員、松本委員、宮下委員、秋元委員、芝辻委員、三崎委員、藤原委員、大塚委員
欠席者	中嶋委員
事務局	堀井副市長、政策推進部長、総務部長、健康福祉部長、市民生活部長、都市整備部長、教育部長、政策推進部理事、政策推進部企画 G 課長、企画 G 参事、任期付職員、会計年度任用職員
傍聴者	1名
議題(案件)	1. 開会 2. 資料説明 (1) 第2回協議会の主な論点 (2) 今後の進め方 (3) 4つのシンボルプロジェクト案 3. 意見交換 4. 本日のまとめ 5. 事務局からの連絡 (1) 狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議・WG キックオフイベントについて (2) その他 6. 閉会
資料	資料1 第2回協議会の主な論点 資料2 今後の進め方 資料3 4つのシンボルプロジェクト案 参考1 活性化指針と再生推進計画上の重点施策及びシンボル事業の関係 参考2 指針の取組み項目を再生推進計画として実行していくイメージ 参考3 活性化指針の取組み実績（令和2年度の実績を追記） 参考4 狭山 NT の活性化に関するアンケート結果

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局	1. 開会 ・第3回狭山ニュータウン地区再生連絡協議会を開催する。 ・本日の出席者数は全委員 15 名中 14 名であり、過半数出席により当協議会の成立をご報告申し上げます。 ・ここから議長に進行をお願いする。
会 長	
事務局	2. 資料説明 ・資料説明
会 長	3. 意見交換 ・4つのシンボルプロジェクト案について説明いただいたが、この後、各シンボルプロジェクトについて1つずつご意見を伺いたい。 ・シンボルプロジェクト1番目の「地域ポータルサイトとの連携による魅力情報の発信強化」から意見をいただければと思う。
副会長	・生駒市のようなしっかりしたサイトを作るには、お金がかかる。お金をかけずに情報を流すために、民間ポータルサイトを使うことはよいと思うが、更に言えば、今は市民自らが既に発信力を持っているので、Instagramやウェブマガジンなどに情報を提供して流してもらう、活用させてもらう戦略やネットワーキングを考えていただくと、より効果的になると思う。
委 員	・色々と情報発信するということで、フェイスブックなど色々あるが、上手く入りやすい雰囲気や設定が必要だと思う。
事務局	・入りやすい設定については、全市的な取組みの中でニュータウンの情報も取り上げるように、ホームページ等と併せ紙媒体との連携充実も考えたい。
委 員	・年齢層が高い方もラインをされている方が多い。大阪狭山市もラインで発信しているが、そこに皆が繋がっていないことが多い。ラインを使っている方は本当に多いので、市が上手く市民に伝えていけたら、色々なところに発信できると思う。若い力の育成のためにも、ラインを上手く活用されてはと思う。
会 長	・魅力情報を提供するだけではなく発信そのものの企画・構成に市民や行政、広く企業が入ることも、考えた方がよいと思うがいかがか。
事務局	・民間のポータルサイトとの連携の深め方が重要だと思う。市民ライター養成講座等を通じ、本当にやりたいと思う市民、時間がある市民を上手に発掘するといったことも視野に幅を広げていきたいと考えている。
会 長	・2つ目のシンボルプロジェクト「公民連携による公園・緑地の魅力向上活動の促進」に移りたい。
副会長	・リーダー育成が必要とあるが、今、いるにも関わらず動けない状況があるかもしれないので、そういう方々がもっと自由に公園等を使ってできるように

会 長 委 員	つないで差し上げるような仕掛けの方がよいと思う。 ・やりたいイベントを拾い上げていくというのが非常に重要だと思う。 ・この「住民等」という部分について、これは自治会や地域の団体が正常に動いていることが前提だが現在その部分、担い手の確保が、非常に心もとない状況が見えてくる点は忘れないようにしなければならないと感じている。
委 員 会 長	・イベントをやるときには駐車場確保も課題に入れていただきたらと思う。 ・大きな問題である。
委 員	・課題のところで、「マンパワーの確保」についての問題の解決を一番重点課題として取り組む必要があり、そのために何をするかを議論していただいて、実現に向けていけたらと思う。
副会長	・人材確保は、団体行動というのが今の時代にはやりづらくなっているのが現実であり、その課題を今後の大きな取組みにしてほしい。
会 長 事務局	・私も市民活動、地域活動を一緒にさせてもらっているが、今の 30 代～40 代は動き方が違う。もっと動きやすいようにしてあげた方がよい。マンパワーがなぜ必要になってくるかという、最初に規模を決めるからである。3 人しかいなかったら 3 人でできるものを何回も繰り返していけばよい。それが広がっていけば自ずと、1 つ 1 つのイベントは小さいけれど、それがつながって一定規模になるという考え方を取れば、また違う展開ができる。そういうやり方も行ってはどうか。
会 長 事務局	・多分トータルコーディネートをどこかの場で行う必要がある。非常に重要だと思うが、事務局はどう考えているのか。
会 長 事務局	・今は地域活動団体として、狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議に活動していただいている。その場で方針やイベント内容といったものを大きく決め、ワーキンググループの中で実体として実行するという体制で行っている。この推進会議、ワーキンググループで今後もそういった活動を広げていければと考えている。
会 長 委 員	・参加している方はいかがか。 ・自分の仕事関係に他府県で活躍している人がおり、フェイスブックに様子を上げてくれる。ちょっとした自治会内、地域のサークル、市の取組みに少し参加しているうちに、発表の場がほしくなり、先ほどお話に出た、既にいるリーダーになれる人たちとして、実際にリーダーとして、その人がやってみて大成功。それが 2 回、3 回と続くうちに裾野が広がって、自然に 30 代～40 代の小学生 1 ～ 2 年の母親が集まってきたという話であるが、最初にこれがやりたいと言ったときに、「じゃあ、やってみる？」「ほな、つないであげるわ」と言ってくれた人がいたと聞いた。
	・だから、そういう人に私になれたらよいと思っている。先ほど他の委員とお話したが、今回のマルシェも泉北で同じ取組みを見てきたとのことで、参加者・スタッフが委員よりも年下の若い人だけだとのことである。でも今回のマルシェで自治会長にお会いした際に、説明会の参加者を聞いたら、私より 10 歳も 15 歳も上の方たちが参加されていたと聞いた。私の年齢の方もい

委 員	るのに行っていないことが少し不思議だったが、その辺を改善すればもっと盛り上がり、若い人が入ってきてくれると思う。 ・ 泉北でイベントをやる方は、20代～30代、年齢が高くても40代ぐらいの方が結構自ら率先してやっているのをずっと見てきた。昨日、マルシェの説明会に行ったが、周りを見渡したら、年上の方が多く、年齢構成的に若い方が出づらい雰囲気はまだあるのではと感じた。
副会長	・ 久宝寺公園のマルシェが事例にあるが、どうやって動かしているかがとても重要だと思う。久宝寺緑地は近畿大学の近所であり、学生もイベントと一緒にやらせてもらっている。この公園の指定管理者はフットワークが軽く、近畿大学をはじめ色々な動ける人たちのネットワークをこの十数年つくり上げているからこそ、何かやりたいと思ったらその人に声を掛けて集まってくれる。イベントを見るのではなく、そこまでに至る人たち、動かし方、動き方を参考にして欲しい。
会 長	・ 3つ目は「空きスペース等を活用したにぎわい拠点づくり」で、3つの取組みを展開していこうとのことである。
副会長	・ ここも色々まとめてよい方向に行っていると思う。もう1点、よくしていこうと思うときに、起業しようとする立場からチェックしてほしいことは、一定のニーズがあるから空き店舗の賃料を下げられないのは分かるが、そうすると起業する人にリスクがあって出てこないという点である。 ・ 例えば、公園のマルシェで、まず屋台から始めてみる。これは非常にリスクが少ない。そこで儲かるという経験を積み、今度は家賃が安い、いわゆるインキュベーション的な施設で1～2年やってみる。そこで自信をつけたら今度は本格的に家賃を20万円ぐらい払ってもできるようになるステップがあると思う。本当にその一歩ができる施設がこのままでは見えてこない。1軒でも2軒でも良いからそういう所を作ると少しハードルが下がってくる。
委 員	・ この「にぎわい拠点づくり」は、30代、40代は特に、50代もだが、車で出掛けていって買い物をしてしまうため、ニュータウン内の小さなところで賑わいをというのは至難の業に近いと思う。引き留めの方策は難しい面があるため、アイデアを一生懸命に考えなければいけない。
委 員	・ 先のシンボルプロジェクト2にも関係するが、若い世代の方が、泉北ニュータウンでの事例では、結構自主的に、色々なことをやっている。狭山ニュータウンでは若い方の活動の場が実はないという話をよく聞く。泉北では公園でマルシェをやって、その次のステップで安い家賃の調整区域にある少し古い民家や安い場所でチャレンジをしている。次に泉北ニュータウン内で何かやりたいという方もおり、狭山ニュータウンにおいても、ステップアップみたいな形をうまく組み込んでできれば良い。 ・ 空きスペースの問題では、空き家の場合でも、第一種低層住居専用地域でも50平米以内であれば、ちょっとした店舗はできる。幅広く土地利用を考えて、若い人たちがやりたいことを支援する仕組みがあり、空き家とマッチングする。ある程度は市がマネジメントしなければならないかもしれないが、商業

	系だけではなく、沿道に空き店舗、空き住宅があれば上手く活用するような仕組みを設け、地域の方、NPO 等が活動できればベストだと思う。 ・ 泉北の場合は、若い NPO が自主的に取り組まれており、その人が市と対等な立場で議論しながら、市職員も 30 代の若い人たちが一緒になって考えて公園のマルシェをやったり、次はこれとか、つながりを持ってやっている。上手く市と民間でコミュニケーションを持てる場があればよいと思う。 ・ 府域全体的に府営住宅があるのはセーフティネット的な話で、今後世帯数が減ってくるので戸数を減らしていくという大きな方針がある。その中で活用できる土地が生まれてくる状況である。どこに活用地を設けるかは大阪府の判断となる部分もあるが、どう活用するかは府に十分なアイデアがなかったり、地域の事情がよく分からなかったりするため、こういう場で一緒に議論させていただき、できるだけ市のため、地域のために活用できることを協議しながら進めたい。 ・ 市のまちづくりが、どういう方向を向いているのかを聞かせてもらい、あとはプレーヤーについて、どういう方がいて、どういうものを求めているのか、そういうことを含めて進めていきたい。あくまでも府民の財産であるため、それを市のまちづくりのためにどこまで使えるかの議論はあるが、必要性等を踏まえながら一緒に検討できればと思う。
会 長	・ 最初に副会長が述べた、起業しようとしている人の立場から検討するとはそういう理解で合っているか。
副会長	・ はい。私は大阪市の市営住宅のいわゆる事故物件を NPO に使っていただくお手伝いをやっており、低額で借りられる。そこで地域貢献してくれるのであれば事務所的にも使ってもらってもよいということを行っている。そういう知恵を絞っていけば、安い物件は出てくると思う。
会 長	・ 次のプロジェクト 4 つ目「スマートシニアライフ事業を活用した地域包括ケアシステムの充実」をお願いする。
委 員	・ 基本方針の部分で、重点取組として「地域包括ケアシステムの構築」という大きなタイトルがあって、基本方針後半で新たに「地域共生社会の実現に向けた「重層的支援体制整備事業」に取り組む」と書かれている。地域共生社会はもともとの上位概念であり、その下の中位概念で包括的支援体制から包括的ケアシステムの構築があって、事業として事業名が重層的な事業となっているため整理が必要だと思った。 ・ 大阪府のモデルで、南花台や狭山で取り組んでいただいている取組みが地域包括ケアシステムを解決する決定打ではなく、これが非常に大きなツールになって、一つの起爆剤となりながら、色々なことが見えてくると思う。これはぜひとも大阪狭山市で取り組みたい。取り組めるように大阪府に市としても強く要請をしていただきたいと思う。 ・ 今回、社会福祉協議会ではタブレット 25 台とモバイルルーター 3 台を調達して、地域のサロン活動等に貸し出しをしようとしている。貸し出しで、大阪府が考えるスマートシティまで行かなくても、アプリを入れてまず慣れてもら

	う。また、慣れてもらう意味でも、講習会の案内をしたら多くの方が手を挙げていただいている。 ・ 1つ1つが起爆剤になるため、上手に連携できたらと思っているが、スマートシニアライフ事業を確実に成功させて次へつないでいただきたいと思う。
会 長	・ このシンボルプロジェクトのターゲットは高齢者がメインなのか、障がい者等を含めた形なのかについて、事務局はどのようにお考えか。
事務局	・ 基本的に高齢者に絞ってと考えている。大阪府のスマートシニアライフ事業の対象が高齢者であるため、本市も高齢者施策である介護予防事業等との連携を想定して、対象者（利用者）を募ることが効果的であると考えている。
会 長	・ 基本方針の辺りの書きぶりは少し検討いただくということで、他はいかがか。
委 員	・ ポータルサイトに関してでも申し上げたが、サポートが必要な人に限って使いこなせないという面をどうするか。そんな難しいことは一切できませんという人も沢山いる。私も含めてその人たちをどうすべきか。
会 長	・ システムはあっても、サポートするシステムをどうするかが非常に大切である。サポートをどうしていくのかという事をしっかりと検討願いたい。 ・ 次のシンボルプロジェクトではないが、「公共交通網の再整備」について、戦略3の方針が提示されている。
委 員	・ 交通機関・事業者にとっては、利用いただくことが最重要である。自家用車でみんな動いて、自家用車は便利と言っている一方で、公共交通機関の本数を少し減らすといたら、なぜ減らすという。そこの啓発をどうするかに取り組まないといけない話であると感じている。
委 員	・ やはりご利用いただければ維持できない側面がある。先ほどマルシェで駐車場問題があり、実際には駐車場を確保してイベントを大々的にやるというのは1つある。 ・ しかし、軌道に乗ってきたら、例えば第3回目は駐車場を禁止にして、乗車券とバル券を組み合わせで公共交通機関で来ましようといった部分で楽しめるようなセット券を企画して、その機会にイベントも楽しんでいただき、公共交通機関を使うきっかけづくりも考えるなど、様々なやり方があると思う。そういう面で支援いただければ非常にありがたい。
委 員	・ 南花台にはもう自動車に乗れない高齢者がコノミヤまで運んでくれるお買い物バスが4台あるが、それには関わっていないのか。
委 員	・ 南花台モビリティ「クルクル」のことだと思う。直接は関わっていないが、運営する協議会に弊社も参加している。
委 員	・ 南花台は山だから、非常に交通が不便である。買い物はコノミヤがほとんどである。お買い物バスは4台ほどで、割と沢山利用されている。 ・ 大野台5丁目、6丁目、7丁目くらいになると、例えばコノミヤやマツゲンに買い物に行くとき交通の便がない。100円バスは細かいところまで入らないため、高齢者対象のもっと小さい買い物バスのようなものが高齢化したニュータウンには必要ではないかと思った。それで関わっているか聞きたかった。
委 員	・ クルクルはゴルフカートのようなものであり、それが運行されて、いわゆる

委員	ラストワンマイル、もう徒歩圏内でしか移動できないような狭いエリアをお助けするものなので、目的がバスの役割とは異なる。 ・クルクルは、市の補助やボランティアでの運営部分が多い。
会長	・道路も電磁誘導のマーカを埋められて、ボランティアが乗っており、ハンドルを握らずにそのルートをもう運行できるような環境も整えられている。
委員	・将来的には、先端技術で自動化され、起業や営業ベースで成り立つような話もあるかと思うが、現状での市民の公共交通への需要意向に関して、対話等を行ったことはあるのか。
会長	・コロナを受けてダイヤを減らすためにご説明した際に、減らされたらやっぱり困るとのことであった。
委員	・本気で使おうという気持ちを出すとか、協議の場を本当は持たれた方がよいと思う。企業側としてはいかがか。
委員	・タクシー側はいくらでも持ちたい。逆に要望を聞きたい。タクシーだけではなく、要はタクシー、プラス何かができないかと思っている。
委員	・やはり公共交通に一度乗っていただきたい。恐らく住人の半数以上が一度も乗ったことがない方であり、まだまだ潜在需要はあると思うので、我々としては一度でも乗っていただきたい。
会長	・そして業界の課題として魅力発信、発信力が弱い。たまたま先週、河内長野で女性ドライバーと20代の男性ドライバーが、自分たちで客を入れるためにハッシュタグを使って「#大阪第一交通」と宣伝して良いかと聞かれた。すぐに使っても良いと伝えたら2時間ぐらいでできましたと言ってくれた。
副会長	・すべてプレーヤーをどう発掘するかいうところに返ってくる。
副会長	・公共交通機関を考えると、バスやタクシーをどう走らせるかを考えるが、私のような都市計画側の立場としては、やはり土地利用も考えていく必要がある。顧客を作り出す土地利用にしなければならない。
副会長	・ニュータウンは住宅に特化しているので、動き方が不利である。現在、近畿大学病院があり、病院の患者さんが乗ってくれているから、10分～15分に1本バスが走っている。近畿大学病院が移転したらどうなるかが問題となる。
副会長	・そして、もし現在の乗降客を維持できる土地利用が近畿大学病院の跡地に作れないとしたときには、今度は住民側が頑張ってどれだけのニーズを生み出せるかを総合的に考えていった方がよいと思う。
副会長	・ご意見感謝する。他はいかがか。
会長	・府営住宅の集約化によって生み出される敷地の活用について、千里ニュータウンの場合は分譲マンションが入るため、若年者が急激に増えた。それによって定員超過となる小学校も出てきている。どういう土地利用を誘導して、どういう人に入っていただき、住民のバランスやバス利用客も含めてどう持っていくかは、非常に重要になってくると思う。そこを今後、また一緒に考えさせてもらえればと思う。 4. 本日のまとめ ・全体を通じて幾つかポイントが出た。全体に関係するのは、やはりプレーヤ

	一の発掘、新たなプレーヤーとしての若い人や若い家族、やる気のある人を、どういうふうに育成するのかだけではなく、実際に既にいる方をどう発掘して参加していただくか。そのためには活躍いただける仕掛けを考えることが非常に重要で、協議会や従来型ではない柔軟いプラットフォーム的なものが必要で、それに対する検討が必要だろう。 ・もっと具体的には、活動の場としての公園マルシェや賃貸、あるいは家賃が高ければ公的にサポートした活躍の場。それらを様々な土地利用計画の中で考える余地があるのではないか。 ・いずれにしても、まず人が一番の財産。その人が活躍する場をどういうふうを考えていくか。そして、その情報は発信していく。この戦略で1から4というのはそういう意味では非常に上手く考えられていると思うが、更に整理をして、具体的に進んでいく方向でまとめていただければと思う。 ・次回は、パブコメ案としてまとめた計画で委員の皆さんからご意見をいただきたい。
事務局	5. 事務局からの連絡 ・本日は真摯なご議論をいただき感謝する。事務局から3点報告事項がある。 ・1点目は、狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議・ワーキンググループのキックオフイベントとして、10月30日（土）に公園ウォークラリーとマルシェを実施する。多くの皆様のご協力をいただき開催できることに感謝し、この間のつながりを一過性のものではなく、継続した連携関係となるよう努める。そして、次回には、近畿大学医学部の学園祭や、市議会議員からご紹介いただいた他のマルシェの主催者の皆様とも連携の幅を広げ地域の活性化に資するよう努めていく。 ・2点目は、ニュータウンのいちょう通りの名店街の一番南側、長尾クリニック前の空き家が来年4月から民間保育所となる予定。空き家となった場所が、活用されることになったため報告申し上げる。 ・最後に、帝塚山学院大学跡地の開発については、コロナ禍により計画が遅延していると伺っている。周辺の情報収集に努め、開発の動向を注視してまいりたい。
事務局 副市長	6. 閉会 ・閉会に際し、堀井副市長からお礼申し上げます。 ・本日は長時間、ご議論頂き感謝申し上げます。次回11月22日の本連絡協議会において、パブリックコメント案としてとりまとめたので、どうぞよろしくお願いする。 ・先ほどの議論を拝聴して思うことは、今回の参考資料の花のイメージ、花がどんどん時とともに、あるいは中身に応じて芽を出して花を咲かせていく。市民の皆様、市、場合によっては府も含めた行政、事業者の皆様に関して、よく三方よしという言葉があるが、私は、この場は三方よしの世界を議論しながら探求していく場であると思っている。この参考2の図にあるように、一度に花は咲かない。水もやりながら、耕しながら、肥料もやりながら、時間も

事務局 会 長	掛かるが、だから一挙にではなく、やれるところから少しずつ耕していくことが一番の近道であると思っている。今後ともご意見を頂戴したい。また個別にお伺いしてご意見を拝聴させていただく場面も次回までの間にあろうかと思うが、その際はどうかよろしくお願いします。本日は感謝申し上げます。 ・ 次回は 11 月 22 日（月）16 時からである。 ・ 以上をもって、第 3 回協議会を終了する。 （終了）
------------	---